第6回スマートシティ推進協議会資料

- 第2回・第3回協働プログラム実施報告
- 今年度事業の総括
- 次年度以降の取組の方向性

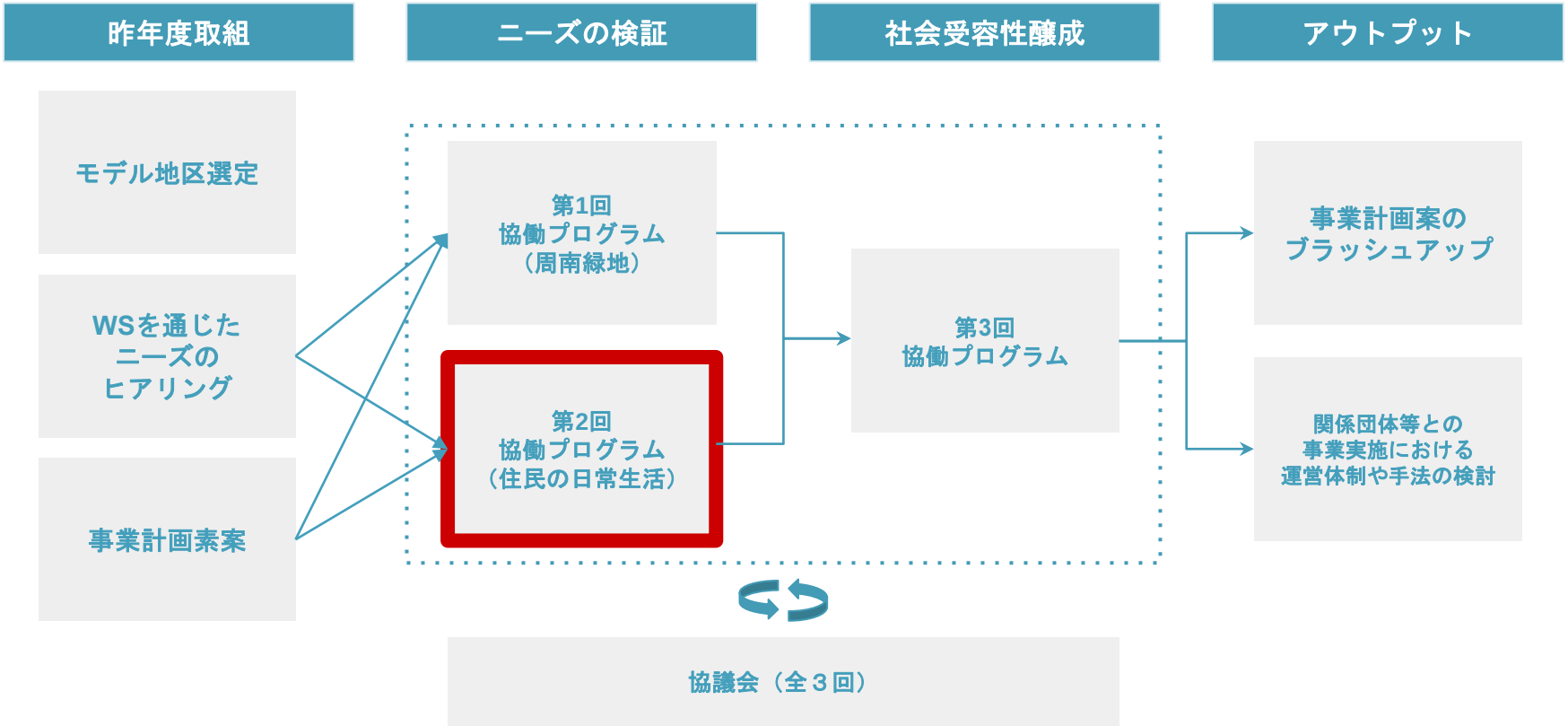
第2回・第3回協働プログラム実施報告

第6回　周南市スマートシティ推進協議会

令和5年3月22日（水）

第2回協働プログラム実施報告
スマートシティアイデア発想講座

第2回協働プログラムの位置付け



第2回協働プログラム開催目的（テーマ設定）

＜背景＞

① 昨年度のWSにおいて、福祉・コミュニティに関する課題および施策案が複数挙げられていたが、第1回の協働プログラムでは扱わなかった

② 第1回協働プログラムでは実証を行う場所が周南緑地に限定されていたため、緑地外のモデル地区におけるニーズ検証が必要であること

③ 第4回協議会において、住民の課題から取組が乖離しないように常に注意し、ニーズの検証を中心に住民の効果的な巻き込みを重視するという今後の取組に関する方針が提案された

＜テーマ設定の根拠＞（昨年度事業で上がった課題および３つのテーマとの整合性）

テーマ	対応する3つのテーマ	昨年度事業で挙げられた課題・施策案
福祉	ウォーカブル& ウェルネスタウン化	・坂道が多い地形を踏まえ、**お年寄りの徒歩移動に対するサポート**が必要 ・歩く楽しみや自らの**健康を実感できる仕組み**が必要
	セーフティタウン化	・子供や**高齢者**が安心して行動できる**見守りの仕組み**が必要 ・AIカメラ等を用いた見守りサービスの提供 ・高齢者、子どもが所持するスマホからWiFi接続状況を特定し見守りサー ビスの提供
コミュニティ	ホームタウン化	・子供を遊ばせに来た子育て中の親同士が繋がるなど、来訪者をつなぎ情報交換の場となるような**コミュニティ作り**が必要 ・親子で遊べるようなイベントを開催
	セーフティタウン化	・地元企業の地域活動への協力や、自主防災組織の活性化など**地域コミュニティの強化**

※第3回周南市スマートシティ推進協議会資料より引用

「福祉・コミュニティ」をテーマとして、第4回協議会においても重要性が指摘されたデザイン思考のフレームワークに則り、プロトタイピングを行った。

＜開催概要＞

スマートシティアイデア発想講座

・日時：2/12(日）13:00~17:00

・場所：キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター

・協力：公益財団法人周南市ふるさと振興財団
　　社会福祉法人周南市社会福祉協議会

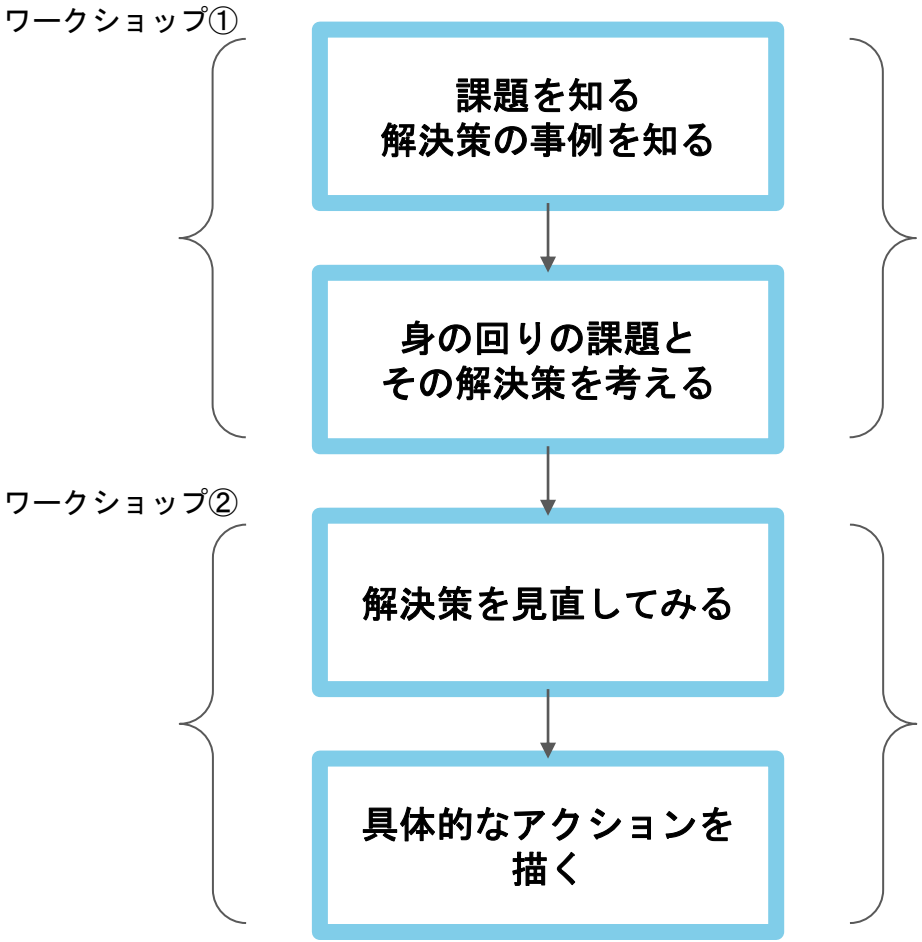
＜参加者＞

・10代から80代まで計11名のモデル地区住民

※デザイン思考
ユーザー視点に立ってサービスやプロダクトの本質的な課題・ニーズを発見し、課題を解決するための思考法。観察・共感、定義、概念化、試作、テストの5つのステップを通して、課題の解決を図る。

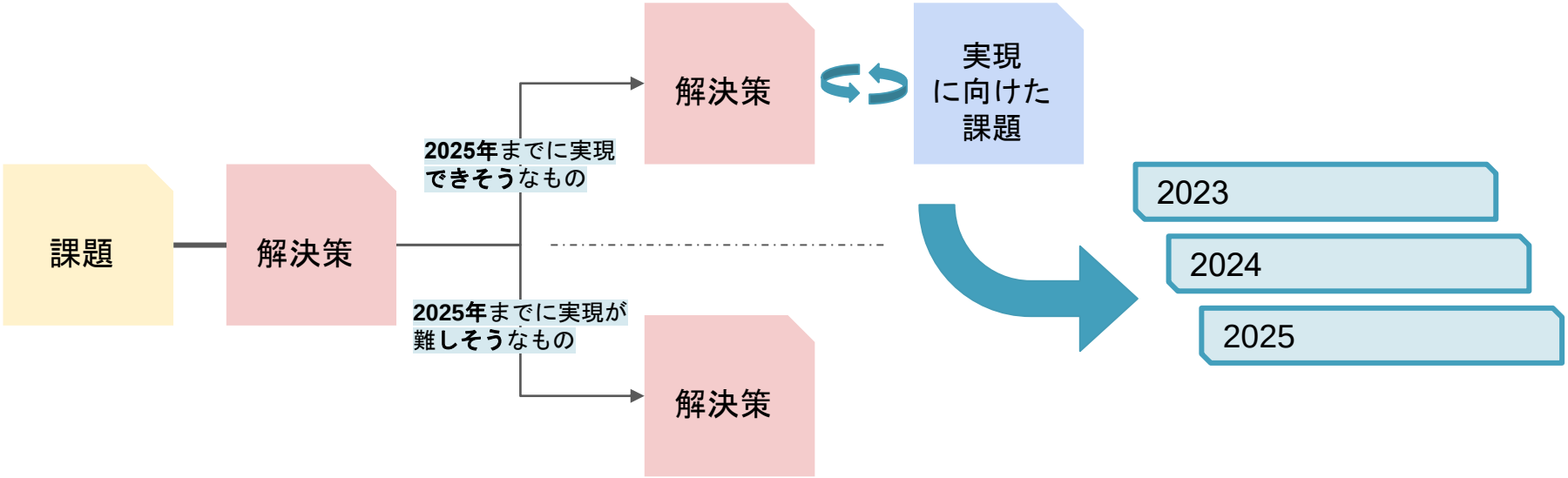
タイムテーブル

13:00 - 13:10	本講座の趣旨・目的の説明
13:10 - 13:20	自己紹介タイム
13:20 - 14:20	有識者の講演
14:20 - 14:40	スマートシティの事例紹介
14:40 - 14:50	休憩
14:50 - 15:30	ワークショップ①
15:30 - 15:45	中間講評
15:45 - 16:30	ワークショップ②
16:30 - 17:00	発表・講評



当日のスケジュール

デザイン思考のフレームワークを念頭に、以下のプロセスを体験していただく。
・抱える課題とそれに対する解決策を考案し、またそれを**再度評価**するというプロセス
・また、**実行可能な３カ年計画（=プロトタイプ）に落とし込む**プロセス

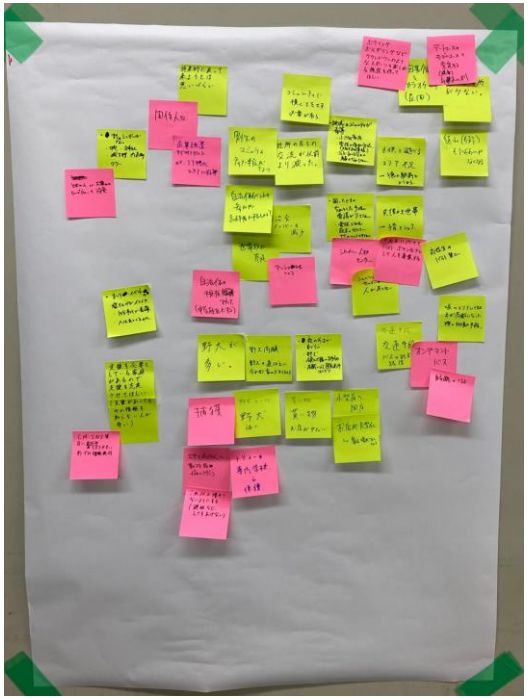


身の回りの課題とその解決策を考える → **解決策を見直してみる** → **具体的なアクションを描く**

課題を知る
解決策の事例を知る

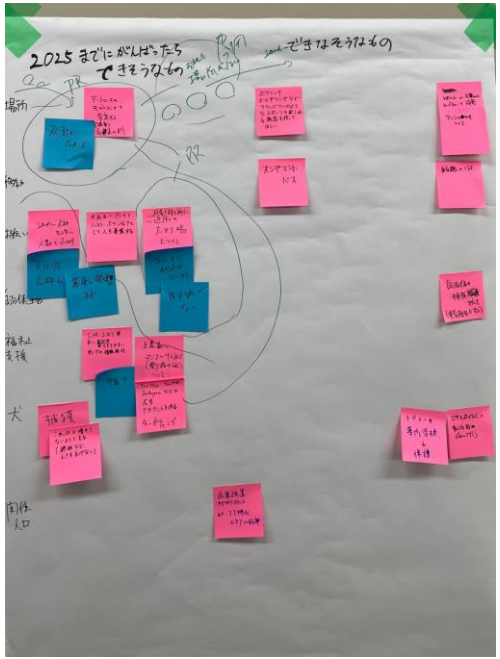
周南市ふるさと振興財団國兼様より地区を超えたコミュニティについて、周南市社会福祉協議会山本様より地域福祉について、活動および抱える課題についてご講演いただき、少子高齢化のなかでの担い手の減少やそれに伴う負担の増加、運営の体制や関わり方の見直しの必要性が説かれた。

身の回りの課題と
その解決策を考えてみる



コミュニティや福祉に関して、
普段身の回りで感じている課題や先の講演で注目した課題（黄付箋）をあげ、
その解決策として既に行われている取組や考えられるアプローチ（赤付箋）を対応付けて発想した。

解決策を見直す
2025年までにできることに注目する



実現性の高さや取組に要する時間などをふまえ、先にあげた解決策を【2025年までに出来そうなもの】／【2025年までに出来なさそうなもの】に分類。
特に2025年までに出来そうな案について、実現の課題や障壁となっている要因（青付箋）について考察した。

具体的なアクションを描く

班であがった様々なアイデアから一つの課題および解決案を取り上げ、2023年/2024年/2025年にできる具体的な取組を段階的に想定した。
各班で発表としてまとめ、國兼様、山本様より講評をいただいた。

WSで挙げられた課題

各班からあげられた課題を総合的に分類すると以下のようにまとめられる。今回コミュニティと福祉をテーマとしたことからも、**その参加や運営、交流についての意見が多くあげられた。**

コミュニティへの参加

- 参加手段がない
- どのような取組をしているかよくわからない
- 敷居が高い

コミュニティの運営

- メンバーの減少
- イベントの需要に対して主催者側が不足
- なるべく簡素化する必要がある

スポット作り

- 遊べる場所が少ない
- 徒歩で買い物に行けるスーパーがない

交流の機会

- 若者と高齢者などいろいろな世代が交わる機会が少ない
- イベントの盛り上がりがいまひとつ
- お店の大型化により集まる場所がなくなる

デジタル普及

- 既存通報システムが役に立っていない
- スマホを持っていても使い方をわからない、ITについていけない人がいる

各班の発表内容と、第3回協働プログラムへの接続

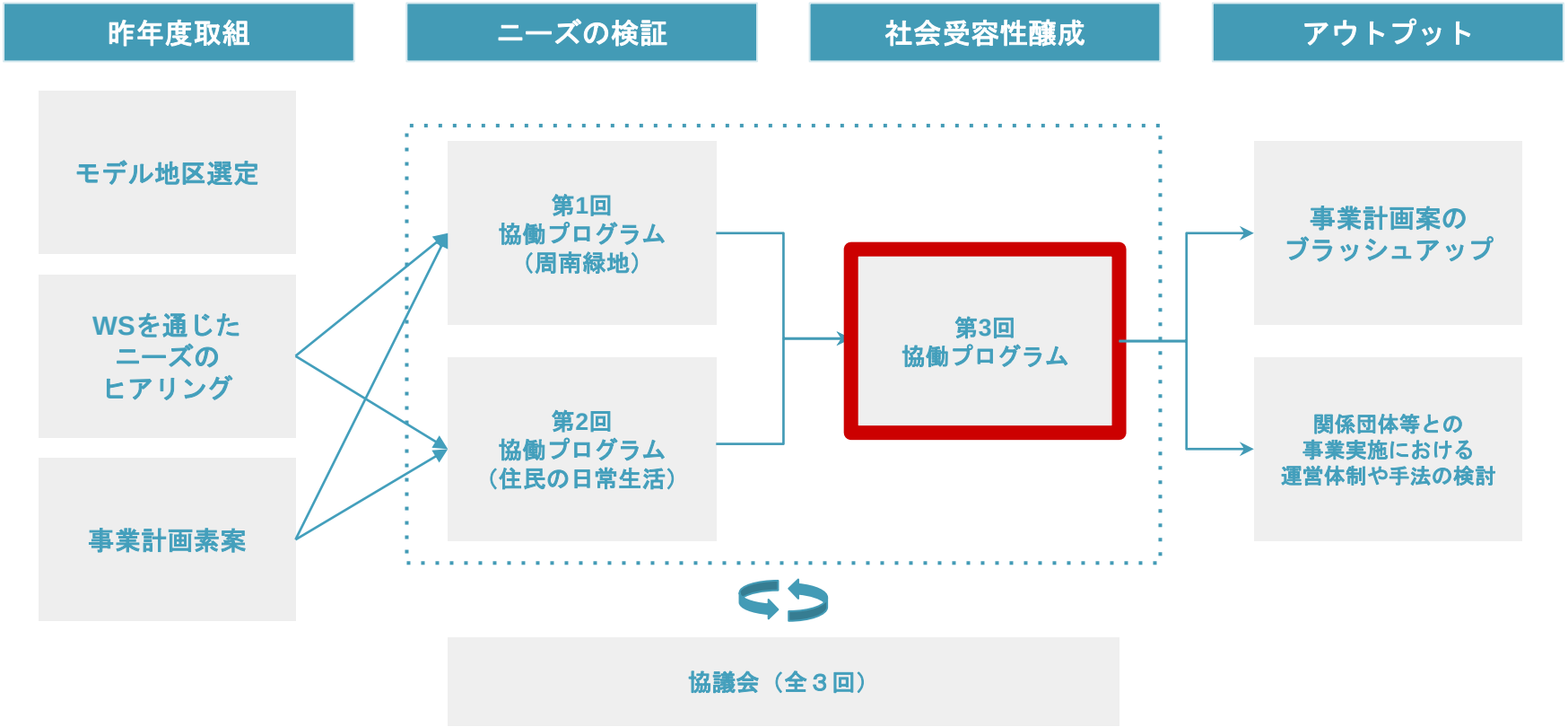
	取り上げたテーマ	2023年	2024年	2025年
A班	地域SNSの運用と 世代や地区を超えた交流	•モデル地区でLINEミニアプリを作成し、イベントの情報発信や施設予約に利用 •小学生が高齢者にスマホの使い方を教える	•LINEミニアプリの検証および内容拡充 •小学生による高齢者のお宅訪問を定期的に行う	•LINEミニアプリを市全域で利用 •メタバースで他地区住民とも交流
B班	若者が昼間に 遊べる場づくり	•10代～20代に人気の昼間のデートコースのデータを集め雑誌に掲載	•若者のほしいスポットの調査	•ニーズ調査をもとにスポットを整備して通りをつくる
C班	コミュニティの 担い手（子どもたち） の育成	•学校を通して子どもたちの地域行事への参加を要請 •子どもの地域参加の重要性について学校の理解を得る	•小.中.高.高専.大学の学生に企画段階から地域行事に参加してもらう	•地域行事参加者の経験をしたの世代に伝える •ミニコミュニティを形成

講評：直近3年にできることを具体的に考えることがよかった。担い手となる子どもたちの活動の場が第三の居場所となると交流や地元に戻ってくるきっかけとなるのでは。若者もお年寄りも互いにできることをやっていくことが重要。

→「持続的なコミュニティ」や「周南の魅力づくり」に関して、各班から発表があった。
このテーマ（市民のニーズ）に対して、デジタル技術を使ってどう解決できるか、という方向性で第3回協働プログラムのテーマ設定を行う。

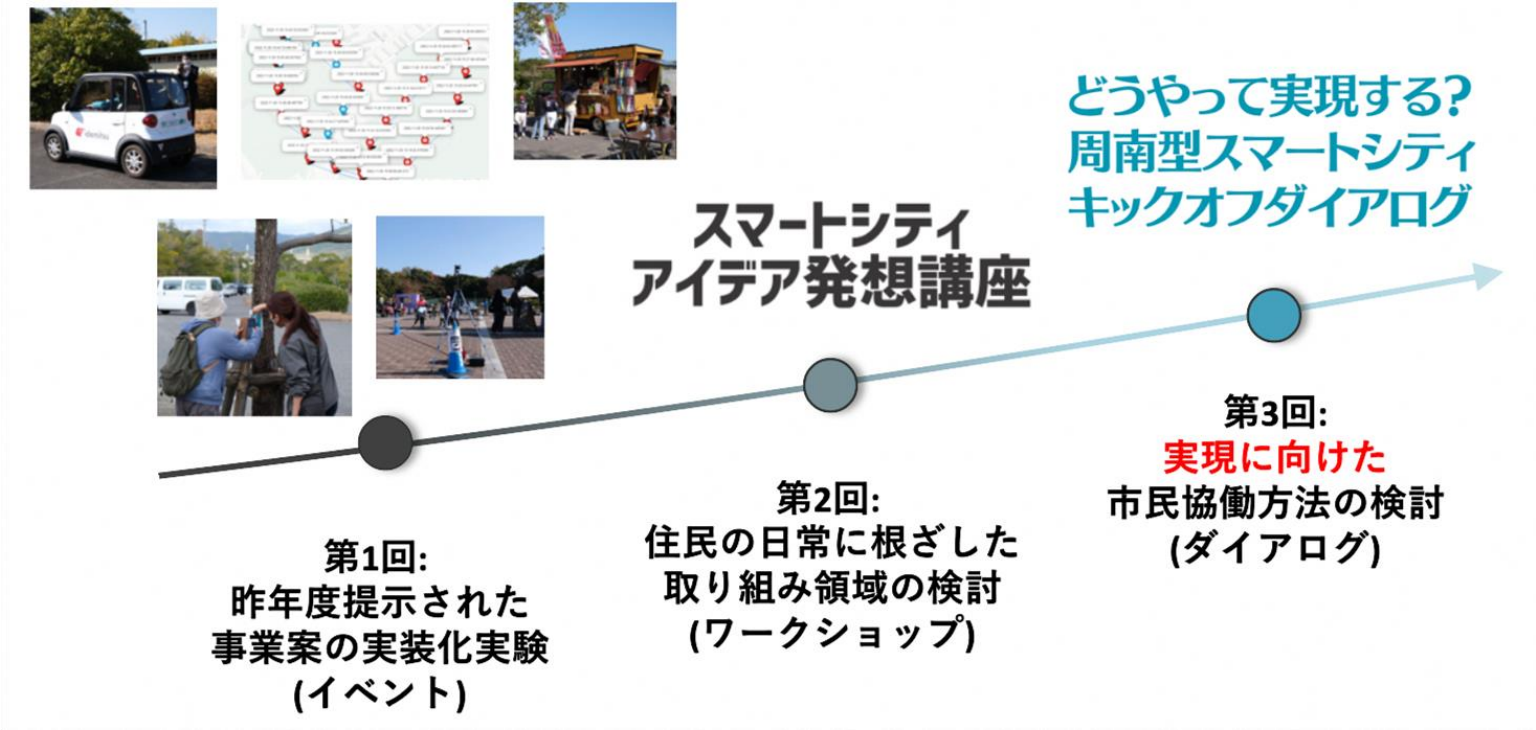
第3回協働プログラム実施報告
「どうやって実現する？
周南型スマートシティキックオフダイアログ」

第3回協働プログラムの位置付け



第3回協働プログラム開催目的

デジタルを活用した緑地の賑わい・憩いづくりや、市民と有識者による今後の取組領域のテーマ検討のワークショップが実施済み。
今回は、**多様な世代、立場の人と「実現」に向けた対話（＝「ダイアログ」）を行うことが目的。**



周南市スマートシティのモデル地区である「周陽・遠石地区」において、デジタルを使った取組を実現するための市民協働の方法を検討する。

＜開催概要＞

どうやって実現する？
周南型スマートシティキックオフダイアログ

・日時：3/12(日）14:00~17:00
・場所：遠石市民センター 大会議室
・テーマ：
  1. デジタルやデータと連携した持続的なコミュニティ活動
  2. 周南をもっと好きになってもらうデジタルの仕掛け

＜参加者＞

・10代から80代まで計18名のモデル地区およびその他周南市在住市民等

周南スマートシティ第３回協働プログラム

どうやって実現する?
周南型スマートシティ
キックオフダイアログ

3/12
(日)

14:00-17:00　遠石市民センター 大会議室

令和４年度周南スマートシティ協働プログラムでは、周南緑地や多くの団地が立地する「周陽・遠石地区」をモデル地区として、デジタルを活用した緑地の賑わい・憩いづくりイベント、そして市民の皆様と有識者が連携して今後取り組むべきプロジェクト・テーマを検討するワークショップを実施しました。
そして今回、令和４年度最後の協働プログラムとして、これまで参加いただいた方々はもちろん、これからスマートシティの取り組みに参加したい皆様にも参加いただいて、以下の２テーマに分かれてデジタルを使った取り組みをどのように実現してゆくか、グループでの対話（ダイアログ）を通して考えてみましょう。

テーマ１
デジタルやデータと連携した持続的なコミュニティ活動
教育機関との連携など、次世代の担い手が参加したくなる持続的なコミュニティ活動をどうスマートシティで実現するか考えましょう。

テーマ２
周南をもっと好きになってもらうデジタルの仕掛け
データと連携した賑わいづくりや、地域の隠れたスポットの情報共有など、デジタルを使った仕掛けをどう実現するか考えましょう。

参加費: 無料
対象者: スマートシティモデル地区(周陽・遠石地区)に在住・在学・在勤の方、および今回のテーマに関して興味のある周南市在住の方
申込方法:フォーム入力 (右の QR) または、
050-3702-1984(運営元 scheme verge 代表電話) にお電話ください。
(※応募多数の場合、申込受付を終了する場合がございます。)

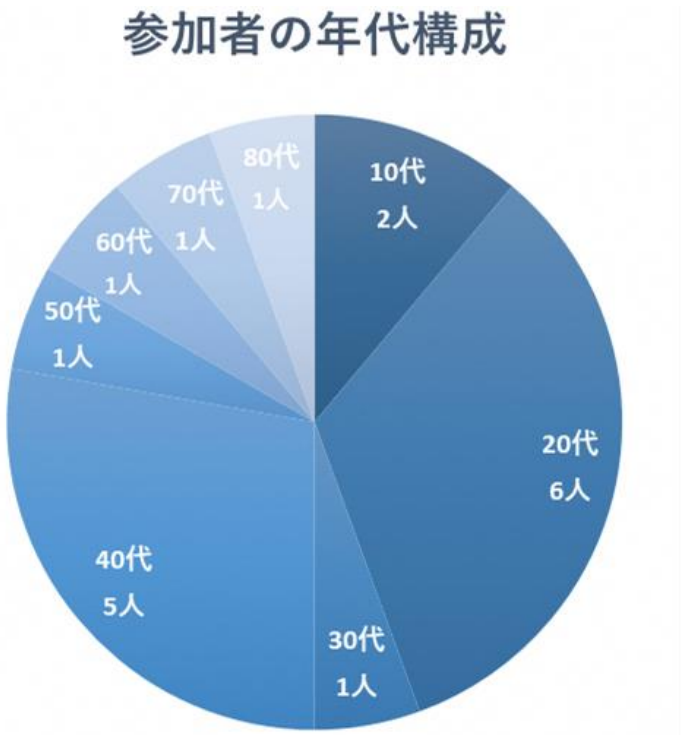
https://forms.gle/g3bUAMuHwY99fKeHA

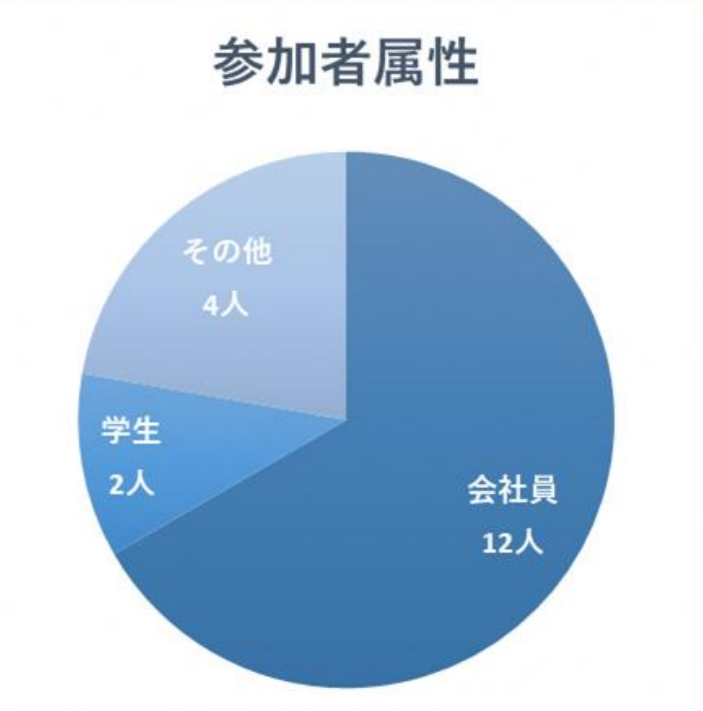
運営:瀬戸内洋上都市ビジョン協議会 広域スマートシティ WG
※本事業は、周南市スマートシティ推進業務の委託事業です。
運営連絡先 shunan@schemeverge.com

第3回協働プログラム開催内容　（タイムスケジュール）

時間	プログラム
14:00	イベント概要の共有と参考事例のレクチャー
14:20	ダイアログ①：周南市民の暮らしの現状や困りごと、将来への期待（一人３分程度） ・自己紹介や普段の生活スタイル、デジタル利用の現状 ・テーマに関して、自分自身が感じる困りごとや期待 ・テーマに関して、周南（特に周陽・遠石地区）において、こうなればうれしいというニーズ（ありたい姿） →ファシリテーターやレコーダーからのQ&A
14:50	ダイアログ②：テーマに関し、将来に向け、スマートシティに期待したいこと ・（テーマごとに）デジタルやデータ活用などスマートシティへの期待や懸念点 →参加者からファシリテーターへの質問、ファシリテーターから補足解説
15:20	休憩
15:30	ダイアログ③：どうやって実現する？周南型スマートシティ ・市民目線でやってみたいことやできそうなこと ・市民同士でどんな連携方法がありそうか、その他周りの人を巻き込める可能性など →全員でディスカッション
16:40	グラフィックレコーディングを用いた対話・議論内容の発表 ・グループから代表者を選出し、グラレコを活用し対話・議論内容を発表 ・Q&A
17:00	終了

第3回協働プログラム開催内容　（参加者属性）





- **10代～80代まで**、幅広い世代の層
- 30代～50代の、今後を担う**子育て世代も多く**
- 学生から**働き手**、地域を支える方など多様な主体にご参加いただいた。

テーマ1：「デジタルやデータと連携した持続的なコミュニティ活動」について

教育機関との連携など、次世代の担い手が参加したくなる持続的なコミュニティ活動をどうスマートシティで実現するかを考えましょう！

過去に出た意見や取組例

- 「地域団体の活動情報がわからない」
- 「若い社会人がボランティアに参加してくれない」

例えばこんなサービス？こんな技術？

- 混雑状況やイベント情報の可視化、発信
- ポイントを集めるとデジタルクーポンがもらえる

特に今日話題にしたいこと

- 地域活動にどんな特典（報酬）がいい？
- 具体的にどのような情報を可視化したらいいのか？
- どんな教育機関との連携ができるのか？

テーマ2：「周南をもっと好きになってもらうデジタルの仕掛け」について

データと連携した賑わいづくりや、地域の隠れたスポットの情報共有など、デジタルを使った仕掛けをどう実現するかを考えましょう！

過去に出た意見や取組例

- 「大学生の遊ぶ場所がない」
- 周南緑地でデジタルスタンプラリーの実施

例えばこんなサービス？こんな技術？

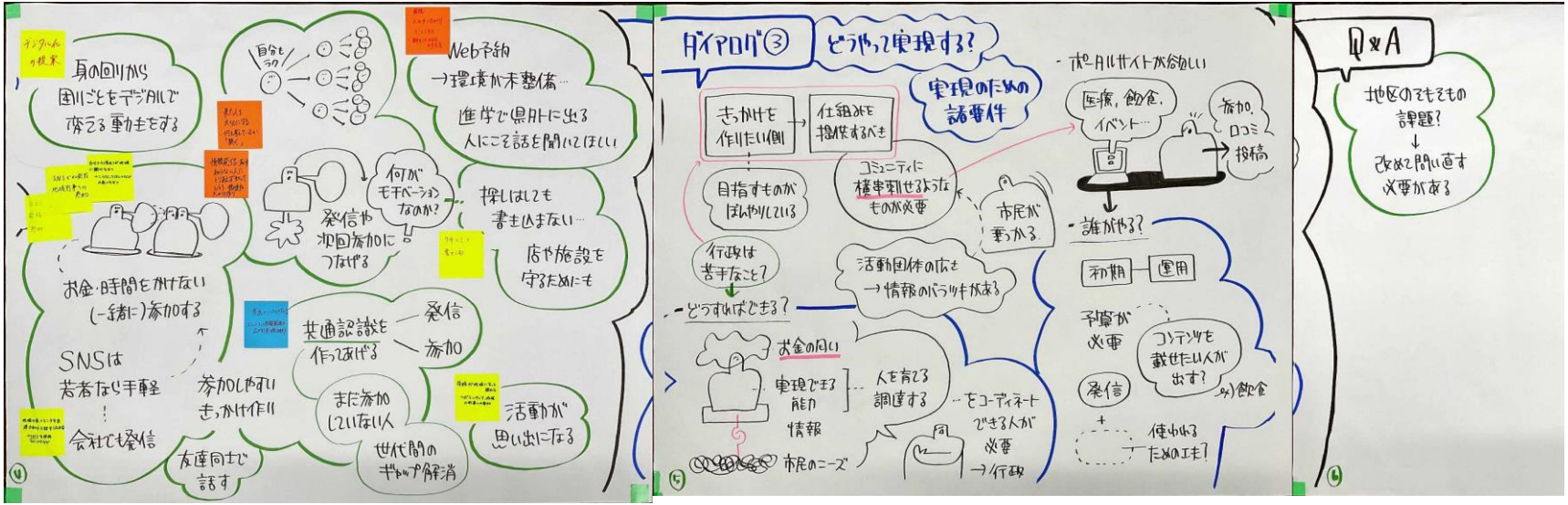
- エリアマップの作成
- イベントと連携したデジタル技術の活用

特に今日話題にしたいこと

- どのような情報を共有したい？
- どんな場作り（賑わいづくり）ができる？
- そこにどんな技術・サービスが必要？

テーマ1：「デジタルやデータと連携した持続的なコミュニティ活動」について

テーマ1：「デジタルやデータと連携した持続的なコミュニティ活動」について



テーマ1：「デジタルやデータと連携した持続的なコミュニティ活動」について

＜コミュニティ活動への参画＞

- 地域食堂などで高齢者が来てくれない、など情報へのリーチの問題から生まれているコミュニティの問題がある
- 一方で、情報流通にお金を出すことは必要だが、それだけでは解決しない可能性はある
- コミュニティ活動に関与するためには、情報へのリーチだけではなく、それと同時に、誘う・誘われる、口コミなど他のより強い動機づけが必要である。

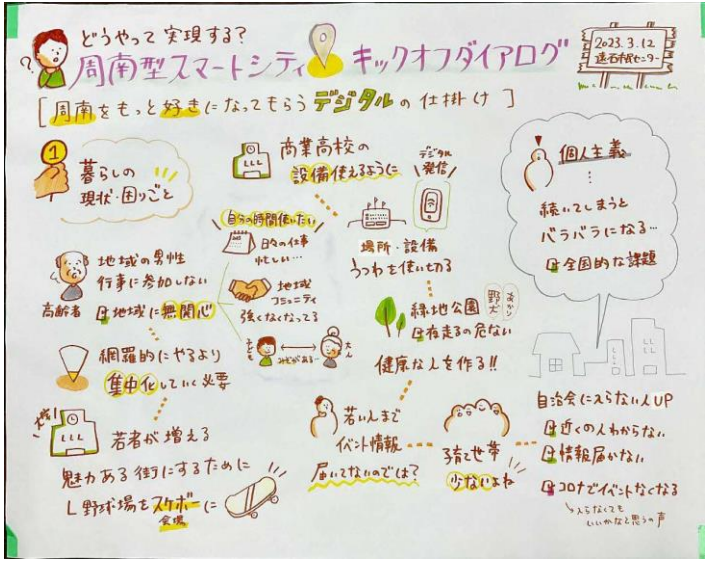
＜地域コミュニティに横串を刺せるものの必要性＞

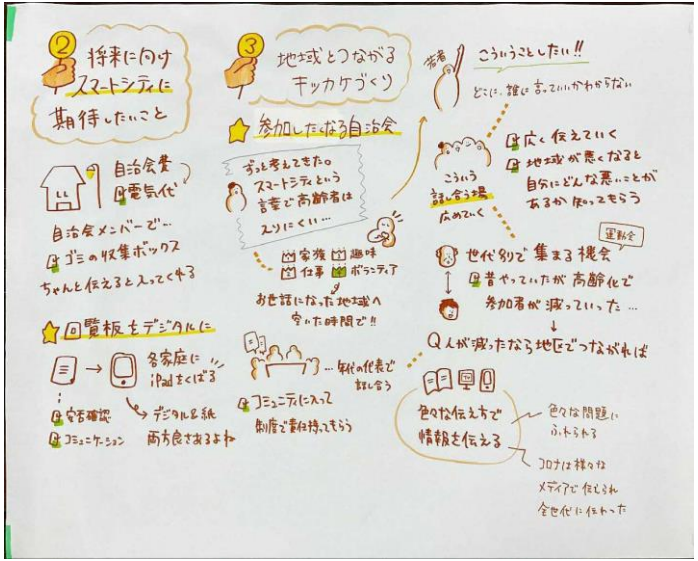
- 「地域情報の収集の際、活動団体に幅がありすぎて、情報に一貫性がない」
- 「例えば、医療、飲食、イベントといった情報が掲載され、参加や口コミ、投稿ができるようなポータルサイトがほしい」
- 「一方で、このような取組の実現に向けた課題としては、誰が主体者になるのか？という点がある」
- 「このようなサイト（仕組み）は行政が構築して、市民がそこに乗っかる形であれば参画しやすいと思う」

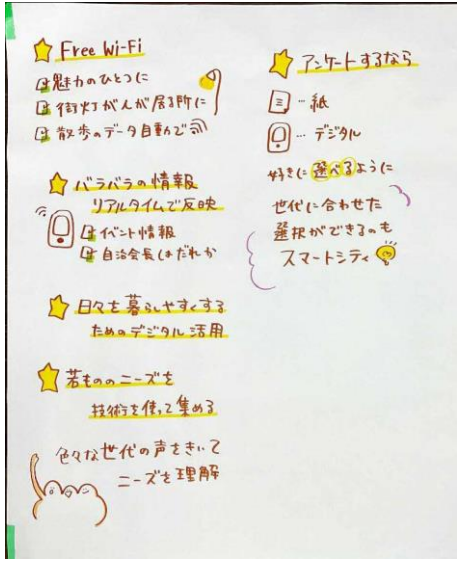
＜周南市（行政）に担ってほしい役割＞

- サイトの構築・運用に関して市民が独力でやることは難しく、行政からお金をつける、あるいは運用できる人を育てる・見つけるといったことは行政にお願いしたい
- 「その他の取組に関しても、民間（企業）が取り組むためには「お金の匂い」がしなければならない。最初のお金の匂いを作るのも、行政の役割なのではないか。」
- その他取組に関しても、市民のニーズ、情報を汲み取り、実現できる能力を持つプレイヤーを行政が育てるor見つけてほしい
- 一方、この仕組みのなかでモデルケースをつくることに関しては、公平性の観点から、行政は得意ではないかもしれないので、（行政と民間の）バランスを取って主体をどうしていくかは継続的な議論が必要

テーマ2：「周南をもっと好きになってもらうデジタルの仕掛け」について







テーマ2：「周南をもっと好きになってもらうデジタルの仕掛け」について

＜地域活動参加への世代間の価値観の相違＞

- 「地域の男性が地域行事に参加してくれない」⇔「日々の仕事が忙しく、自分の時間使いたい」
- 「地域のコミュニティが強くなくなっている」
- 「世代間で溝がある」

＜情報発信・取得に関する世代間の手段の相違＞

- 若者から「地域活動に関する情報がわからない」や「地域活動としてやりたいことがあっても、誰に言えばいいかわからない」
- 高齢者から「ウェブサイトを運営するだけで精一杯」「デジタルで発信しても高齢者は誰も使えない」

＜デジタル/スマートシティの概念・単語への世代間の価値観の差＞

- 「デジタルの前にやるべきことは色々あるのでは？」
- 「スマートシティ、デジタルという言葉だけで高齢者は避けてしまう」

＜地域住民のニーズを拾い上げる必要性と、合意形成のゴール設定の難しさ＞

- 「スマートシティはあくまでシーズ（手段）であり、地域住民のニーズ（目的）が固まらないと、デジタルやデータ活用という話は始められないのではないか。」
  →一方で、どのような手段、もしくはどのような状態であれば、地域住民のニーズを拾い上げたといえるのか、という合意形成に関するあるべき像のイメージも難しい。

＜合意形成に向け、各世代に適したツール活用の重要性＞

- 「紙（高齢者向け）とオンラインフォーム（若者向け）を併用したアンケートの実施はどうか」
  →若者向けの情報発信や、ニーズの把握のためには、デジタル技術を積極的に使うことが求められる。（各世代の得意なツールを使い分けることが重要。）また、議論による合意形成がそもそも可能なのか、という示唆も含んでいる。

第3回協働プログラム実施結果

第3回協働プログラムの成果としては、

- **協働の仕方について、ワークショップからの情報収集以上のやり方を実践したこと**
- **昨年は主に協議会で話されていた住民・市民のニーズへの対応方針に関して、住民自身と対話でき、協議会委員と異なる目線の意見が挙がったこと**

が挙げられる。

特に、それぞれのグループで異なる観点での示唆が得られた。

グループ１

具体的な事業のアイデアがいくつか挙げられ、**ボトムアップ（住民起点）型の事業計画のなかでの市民の関わり方への示唆**が得られた。

・コミュニティ活動への参画
・地域コミュニティに横串を刺せるものの必要性
・周南市（行政）に担ってほしい役割

グループ２

ボトムアップ型の事業計画を構築する上で、地域住民のニーズを拾い上げる難しさに対する意見が参加者からあがり、**合意形成のあるべき手続き論への示唆**が得られた。

・地域活動参加への世代間の価値観の相違
・情報発信・取得に関する世代間の手段の相違
・デジタル/スマートシティの概念・単語への世代間の価値観の差
・地域住民のニーズを拾い上げる必要性と、合意形成のゴール設定の難しさ
・合意形成に向け、各世代に適したツール活用の重要性

今年度事業の総括

第6回　周南市スマートシティ推進協議会

令和5年3月22日（水）
※ 現時点での総括案として資料は掲載

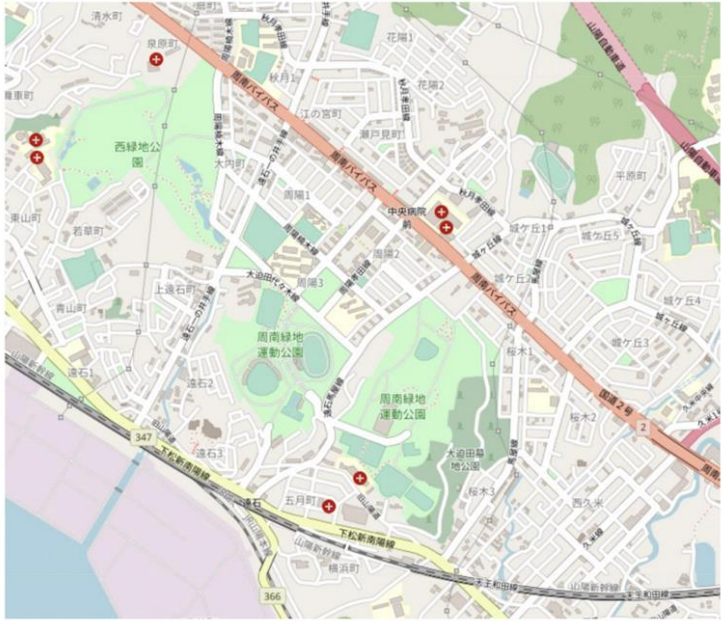
モデル地区の選定（昨年度実施）

4 モデル地区の選定

地区の特性を比較検討したうえで、実証実験、将来的な横展開、他の取組との連携等を総合的に勘案して、以下の理由により周陽・遠石地区をモデル地区に選定し、今後、複数分野の取組を検討することとした。

なお、モデル地区については、厳密に範囲を設定せず、市内他地区等とも連携しながら、本事業を進めることを想定している。

市街地モデル：周陽・遠石地区



※背景地図は、OpenStreetMapを活用

◆地区特性

市営住宅や県営住宅、マンションが立地する一方、老朽化した低層住宅地も広がり、幅広い年代が暮らしている。また、行政施設や教育施設、商業施設、医療施設が多く立地するとともに、路線バスが比較的多く運行されているなど、日常生活に関連したスマート化の検討に適していると考えられる。

◆市の主要事業等との連携

周南緑地では、公民連携により体育施設や緑地公園の整備を検討しており、関係団体や企業等と連携しデジタル技術等の導入の有効性が高いと考えられる。

◆選定理由

一定の居住人口、幅広い年代構成、多様な公共・民間の施設、周南緑地における取組との連携を考慮し、ニュータウン再生のモデルとして、周南団地（周陽・遠石地区）をモデル地区に選定する。

※第1回周南市スマートシティ推進協議会　協議資料より抜粋

モデル地区との課題共有（昨年度実施）

モデル地区における課題設定のため、住民参加型の3回のワークショップ（うち一回はアンケートに変更）が実施され、目指すべき地域・生活の青写真や、そのために地域で取り組めるアイデア、並びに具体的な取組方針が議論された

第1回

■ **モデル地区住民との議論を通じて、地区の困りごとと解決された姿について整理**

－ 地域の課題が解決された姿として「歩いて外出しやすく健康的な生活を楽しんでいる」、「遊びや交流、学び等の活動を活発に行っている」、「暮らしの安全が確保されている」の3つに整理された

第2回

■ **第1回を通じて整理された地域課題が解決された姿について、その姿に至るためにはどのような取り組みアイデアがあるかについて地区住民と意見交換を実施**

－ 第1回で出された個々の課題に対してどのような取組ができるかについて地区住民から様々な提案がなされた

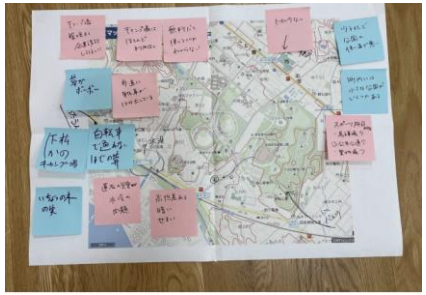
第3回

■ **第2回で提案された取組アイデアをさらに具体化していくために、「どこでやるか」「誰がやるのか」「どのようにやるか」の3テーマについて地区住民を対象としたアンケートを実施**

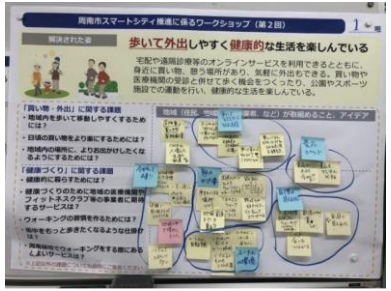
－ モデル地区内における具体的な場所・施設、取組の実施主体となる周南におけるプレイヤー、取組を実現するために必　　要な「情報の見える化」のための適切な仕組み作りについて地区住民から多数の回答があった

ワークショップの様子（昨年度実施）

第1回ワークショップ



第2回ワークショップ



三つの柱の策定（昨年度実施）

ワークショップを通じて住民からあげられた地域の課題と課題を解決するための取組アイデアに基づいて、モデル地区における取組の方向性として以下の三つの柱が策定された

① ウォーカブル&ウェルネスタウン化

歩いて外出しやすく健康的な生活を楽しんでいる

– 宅配や遠隔診療等のオンラインサービスを利用できるとともに、身近に買い物・憩う場所があり、気軽に外出もできる。買い物や医療機関の受診と併せて歩く機会をつくったり、公園やスポーツ施設での運動を行い、健康的な生活を楽しんでいる

② ホームタウン化

遊びや交流、学び等の活動が活発に行われている

– 子供たちが、放課後や休日、友達や家族と遊んだり、学んだりしている。地区住民や来訪者が周南緑地公園を憩いやスポーツ、新たなアクティビティの場として活用し、地域への愛着を深めている

③ セーフティタウン化

安全な生活環境の中で安心して活き活きと暮らせる

– 公園の利用、通勤・通学等において、野犬や自動車、夜間の暗さ等によって生じる危険が抑制されることにより、安全性が確保され、いつでも安心して通勤・通学、外出、屋外での活動を行うことができる

事業計画案およびロードマップの策定（昨年度実施）

ワークショップおよび協議会を通じて策定された３つの取組方針に基づいて、短期的・中長期的なデジタル技術等を活用した施策案および実施に向けたロードマップが提案された

方針		ワークショップで得られた課題	デジタル技術等の活用		（参考）ハード対策
			短期的な施策案	中長期的な施策案	
ウェルネス化	第1回	• 坂道が多い地形を踏まえ、お年寄りの**徒歩移動**に対するサポートが必要 • お出かけを促進する地区内での催しや講座等に関する**情報提供**が必要 • 自宅から気軽に買い物に出かけられる**場所の確保**が必要 • 歩く楽しみや自らの**健康を実感できる仕組み**が必要	山口健幸アプリ等との連携による 外出機会の創出・歩く楽しみの提供 • ウォーキングデータ(コース・頻度等)から新たなコース設定(地域の方と一緒にコースを探索・設定) • 講座と参加者の体力・健康データとの結び付けによるAIを用いた健康指導 • ウォーキング実績に応じたポイントの付与 • バーチャル空間におけるウォーキングコースの確認(外出ができない方向け) ウォーキングイベントの開催による モチベーションや外出機会の創出 • チャレンジ目標やミッションを設定し、ポイントを付与 • ウォーキングコースのチェックポイントでの情報発信(野犬やイベント等の情報提供)	健康情報の一元管理による 継続的なウォーキングや外出の促進 • 健康情報や健診データ、ウォーキング等の活動状況をかかりつけ医と連携した健康管理 • 高齢者の外出頻度の減少を自動検知し、本人への通知等による外出促進、遠方の子供等への見守り通知 個々のデータに基づいた 最適な運動計画や健康情報の提供 • AIによるウォーキングコース提案 • データに基づく健康状態の判定や改善提案 オンライン健康増進プログラム (オンラインインストラクター)の開催 • オンラインによる場所にとらわれない健康プログラムの提供	ウォーキング・ランニングステーションの設置
	第2回	• 歩くとポイントが付与される等の**歩いて買い物したくなる仕組みづくり**が必要 • ウォーキングイベント等**歩きたくなるきっかけづくり**が必要 • ウォークラリーのチェックポイントを設置するなど**地区内に歩いていきたくなる場所づくり**が必要 • 共通の目標を持ったウォーキングを促進する等**目標を見える化**する • 自販機やトイレなど**ウォーキングルートの環境整備**			
ホームタウン化	第1回	• 周南緑地公園等地区内で、若者に支持される新たな**アクティビティ**が必要 • **公園（スポーツ施設）施設利用者の飲食**等を支える機能が必要 • 公園等、地区内で開催される催し物やイベントに関する**効果的な情報提供**が必要	人流データの収集による ニーズや課題の把握・整理 • 周南緑地公園利用状況(人の動き・滞留状況)のモニタリングによる見える化(**WiFiスポット**で検知されたスマホの情報　で公園内の人流を可視化) • AIカメラを活用したフレンドパーク内の人の集まり状況の可視化(属性判別で親子連れが多い時間帯を判別し、その時間帯に人が集まり交流が生まれる環境づくり) • 高齢者を対象に、公園に来た方に毎日ポイント付与 交流の場を設定することによる 地域コミュニティの強化 • タブレット等を活用した学び、リモートを活用したワークショップを開催 • 地区内の遊び、学び等プログラムに関する情報集約、登録者や地区滞在者への通知	人流データの分析による 地域課題の解決や賑わいの創出 • エリアでの人流(滞在人口、滞在時間、建物間のOD)を用いた、効果的な移動式店舗やデリバリーサービス • 公園内の人の多さの状況を周辺店舗と共有した移動販売による活性化 • EV車による公園内の移動支援と移動ニーズの把握(公園内巡回バス等の導入検討) 講師と受講者、利用者間等の マッチングサービス • 教えたい人と教わりたい人のマッチングによるサービスの充実 • コミュニティや情報共有の場の提供 • 施設の利用促進 施設予約システムの構築による 施設の利活用、利用促進 • 施設の利用状況や空き状況、予約受付等の情報の集約と共有	公園施設のリノベーション(憩いの場、カフェ等) 移動販売車の配置 EV車両の導入(公園内の円滑な移動) バスケットコート・ニュースポーツ施設の設置
	第2回	• 色々な人が楽しめる総合的施設としての**新しいプレイスポットづくり**が必要 • 子供を遊ばせに来た子育て中の親同士が繋がるなど、来訪者をつなぎ情報交換の場となるような**コミュニティづくり**が必要 • 体育館やグラウンドなどの施設の利用状況などの**情報の集約と共有**			

ウェルネスタウン化

ホームタウン化

※第3回周南市スマートシティ推進協議会 協議資料より一部抜粋

事業計画案およびロードマップの策定（昨年度実施）

方針		ワークショップで得られた課題	デジタル技術等の活用		（参考）ハード対策
			短期的な施策案	中長期的な施策案	
セーフティタウン化	第1回	• リアルタイムに野犬の出没情報を把握でき、**野犬との遭遇の確率を低減**させる仕組みが必要 • 夜の暗さや交通事故の危険性を気にせず、**安心して外出できる公園内や道路環境の改善**が必要 • 子供や高齢者が安心して行動できる**見守りの仕組み**が必要 • 災害も含めた**リスクに関する情報共有の仕組み**が必要	危険な情報のリアルタイムな提供 • 野犬や不審者の出没情報の提供、リアルタイムでの通知 • 道路陥没等の情報提供、リアルタイムでの通知 • 野犬、道路陥没等の情報提供者にポイントを付与 子供や高齢者の見守り・安全確保 • AIカメラ等を用いた見守りサービスの提供 • 高齢者、子どもが所持するスマホからWiFi接続状況を特定し見守りサービスの提供（徘徊老人）	AIによる危険の予測や排除 • 不審者や野犬をAIカメラで検知しデータとして蓄積することで出没傾向の把握、リアルタイムでの通知、近づけない仕組みの構築 スマート街灯の設置による夜間の公園内や道路環境の改善 • 日照と人や車の流れに応じた照度のマネジメント • 人流データ分析（WiFiスポットから人流を把握：場所、時間帯）から効果の高い箇所にスマート街灯を設置 • 野犬が嫌う周波数の発信機の設置による野犬対策 災害時の防災拠点化 • 災害時におけるEV車両を用いた電源スポット、ローカル5Gの設置により、地域住民の情報収集の確保 • 電力確保による周南緑地施設の防災拠点化	安全な道路空間（安全に動ける道路整備） EV車の充電スポット整備 ローカル5G基地局整備
	第2回	• 危険情報に対して**ローカルでリアルタイムな情報の共有** • 住民の生活時間帯に合わせた防災・防犯活動、見守り • 野犬・交通事故・災害の**危険情報の一元的な公開** • 世代・属性に応じたツールでの情報提供（**スマホの無い人などにも届く情報提供**） • **災害の実績の記録**			

セーフティタウン化

今年度事業では昨年度提案された施策メニューを住民参加型のプログラムを通して検証・ブラッシュアップし、次年度以降の実証実験の取組内容を決定する

※第3回周南市スマートシティ推進協議会 協議資料より一部抜粋

昨年度の取組を踏まえた今年度事業の考え方

昨年度の実施事項

- モデル地区の選定
- モデル地区住民との課題共有を企図したワークショップの実施
- モデル地区における取組の三つの方向性の策定
- 事業計画案およびロードマップの策定

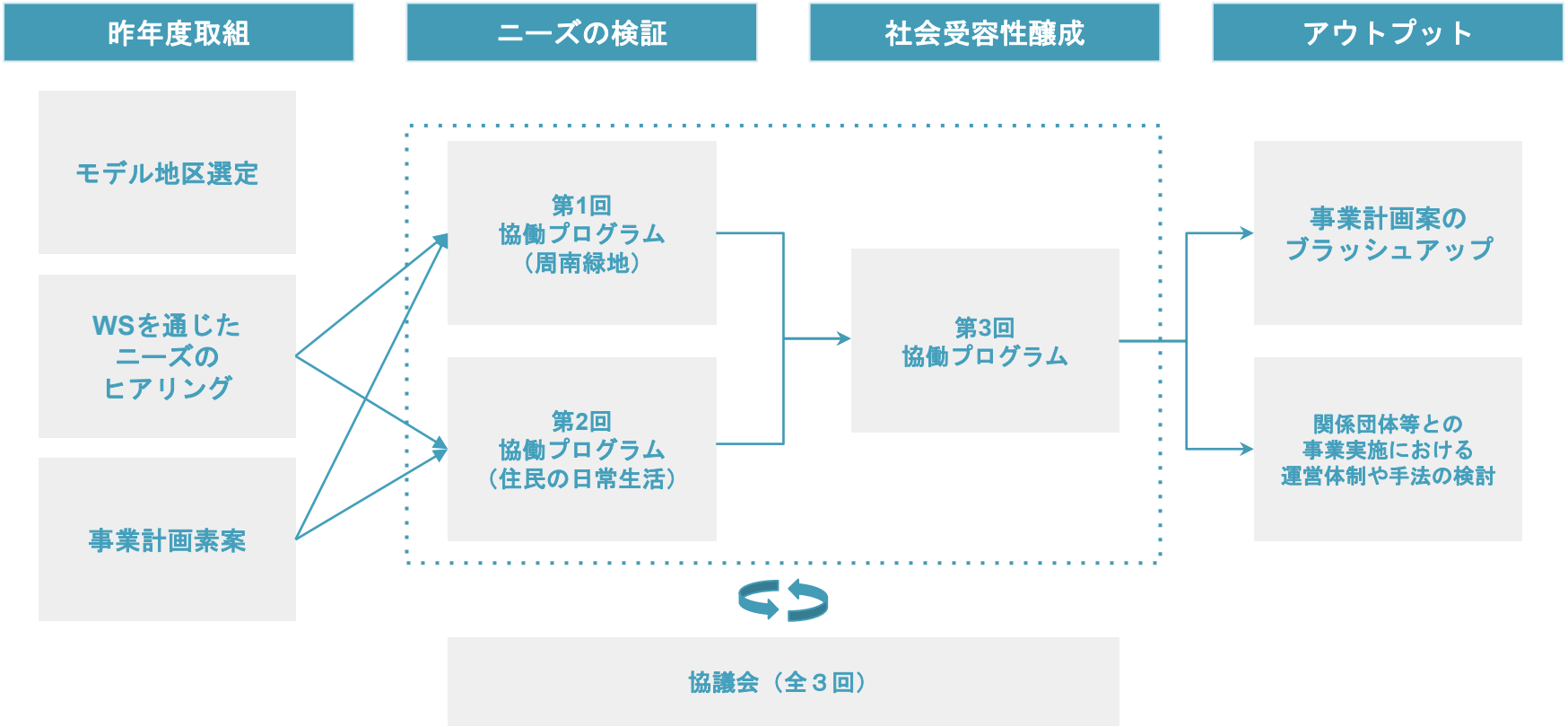
昨年度の踏襲部分

- モデル地区における取組の三つの方向性
- 住民目線かつ課題起点でのスマートシティ推進
- 企業・団体との連携の必要性
- アジャイル型の事業計画更新

今年度の取組事項と目的

- 協働プログラム実施による昨年度WSで挙げられた課題・ニーズの検証、住民からのフィードバック取得
- 協議会実施による俯瞰的・専門的観点からの事業計画、運営体制の検討
- モデル地区における事業計画案のブラッシュアップ
- 関係団体等との事業実施における運営体制や手法の検討

市民参加型の「協働プログラム」と有識者による「スマートシティ推進協議会」の実施を通じて、市民参加型スマートシティの構築を目指していく。



協働プログラムの実施

	第1回協働プログラム	第2回協働プログラム	第3回協働プログラム
実施概要	● タイトル：「スマート体験イベント in周南緑地」 ● 日　時　：11/26(土)~28(月) ● 開催場所：周南緑地公園	● タイトル：「スマートシティ アイデア発想講座」 ● 日　時　：2/12(日) ● 開催場所：キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター	● タイトル：「どうやって実現する？周南型スマートシティキックオフダイアログ」 ● 日　時　：3/12(日) ● 開催場所：遠石市民センター
実施目的	● 昨年度あげられた人流や賑わいの創出に関する課題・ニーズを既存のソリューションを組み合わせて検証・実験する	● 昨年度WSで提案され、かつ第1回で扱わなかった課題・ニーズの検証 ● 協働型スマートシティの取組領域テーマの検討	● デジタルを使った取組を実現するための市民協働の方法についての検討 ● ダイアログ（=対話）を通じたスマートシティの社会受容性の醸成
実施内容	● AIカメラ設置 ● デジタルスタンプラリー ● キッチンカーの出店 ● 超小型EV試乗	● 課題に対する解決案の見直し ● 2023～2025年の計画づくり（プロトタイプ）	● 多様な市民を交えた市民対話 ● グラフィックレコーディングを用いた整理

協働プログラムの実施から得られた示唆

1. **第1回協働プログラムの実施から得られた示唆**
   a. AIカメラによる正確な属性分析やユニークユーザーのカウントには障壁がある
   b. アプリ等を用いてユーザーの移動行動データ、消費データを取得し、人流データと組み合わせることは有効な可能性がある
   c. スポーツ施設の利用・予約状況やイベントの開催情報など需要予測データの事業者への提供に関してはニーズが存在する
   d. 費用面において継続的に運営していくためのスキームを検討する必要がある
2. **第2回協働プログラムの実施から得られた示唆**
   a. 地域コミュニティの維持については、運営の負荷の大きさが参加障壁となり担い手不足の主要な原因となっている。負担の分散、担う範囲の見直し、新たな担い手、自分ごと意識の醸成の検討が求められる
   b. 新たな技術の導入だけでなく既存のもの（周南通報アプリ、世代を超えて幅広く普及しているソーシャルメディアなど）の運用の改良も検討する必要がある
3. **第3回協働プログラムの実施から得られた示唆**
   a. 具体的な事業のアイデアがいくつか挙げられ、ボトムアップ型の事業計画のなかでの市民の関わり方への示唆が得られた
   b. ボトムアップ型の事業計画を構築する上で、地域住民のニーズを拾い上げる難しさに対する意見が参加者からあがり、合意形成のあるべき手続き論への示唆が得られた

協議会の実施内容と得られた示唆

1. **第4回協議会**
   a. （住民の課題起点でのスマートシティ推進について）
      i. ユーザー中心の課題解決はまさにアジャイル型、デザイン思考のフレームワークを使いながら取り組んでいくべき
      ii. ワークショップや住民の意見から離れていってしまっていないかという懸念があったかと思う。まだその懸念が払拭できていないと感じており、我々周南市として進めていくスマートシティが地域の住民、企業の困っていることをしっかり解決することが何よりだと思う
      iii. コミュニティが基本なので、コミュニティがどういうことを不便に思っているか、何をしたいと考えているかに向き合い、コミュニティとの距離が近いスマートシティであることが重要
      iv. イベントに参加したモデル地区住民や関連団体からのフィードバックをどう得るかが重要
   b. （成果を定量的に評価する必要性）
      i. 何を最終的な成果、KPIとして置くかを意識しながら取り組んでほしい

第5回協議会

   a. （第1回協働プログラム関連）
      i. やったやったで終わらないように継続化・定例化すべき
      ii. イベントがある日にぶつけるなど、キッチンカー事業者が十分な利益を得られるようにすべき
      iii. スポーツイベントの実施状況や周辺施設の情報などを事業者に提供できると周南緑地の価値向上につながるのでは
   b. （別途周南市が実施したシンポジウムとの連携した議題として）
      i. 他都市との連携可能性を模索してほしい
   c. （その他）
      i. 食や健康、高齢者の健康づくりに関するニーズは昨年度から出ていたので汲み取ってほしい
      ii. 瓦版のような媒体と連動させたアンケートの実施によるニーズの吸い上げ
      iii. 防災の視点も重要

次年度以降の取組の方向性

第6回　周南市スマートシティ推進協議会

令和5年3月22日（水）

本年度事業から得られた示唆と事業計画更新のポイント

ボトムアップ型のスマートシティを推進していくにあたり、ターゲットごとの個別最適解をきちんと運用でき、その上で全体最適ができる仕組みを作っていくための事業計画の更新を行う

第4回協議会にて示した事業計画案

	課題の発見	課題に対するソリューションの実証		社会実装
	1年目	2年目	3年目	4年目以降
想定するゴール	・モデル地区の選定 ・モデル地区住民との課題共有 ・次年度以降の事業計画の企画立案（概算事業費の試算） ・スマートシティ推進協議会の運営	・プレ実証実験 ・次年度の事業計画の立案 ・短期の概算事業費の算出 ・コンソーシアムの設立（メンバー選定）	・実証実験 ・次年度の事業計画の立案 ・短期の概算事業費の算出 ・コンソーシアムにおけるビジネスモデルの検討（企業間連携）	・社会実装 ・次年度の事業計画の立案 ・コンソーシアムによる運営の開始
実証等（プレ実証～社会実装）	・ワークショップによるモデル地域の課題とニーズの把握 ・講演会による地域住民等へのスマートシティの必要性の説明 ・プレ実証の実施内容の整理	・プレ実証実験の協力企業の募集 ・プレ実証実験の実施 ・プレ実証実験から得れられたモデル地区における新たな課題、ニーズの把握	・実証実験の協力企業の募集 ・実証実験の実施 ・実証実験から得られたモデル地区における新たな課題、ニーズの把握と分析	・他の地域への展開の検討 ・スマートシティの恒久的な実施を実現するための市財政のキャッシュフローの継続的な分析
組織作り	・スマートシティ推進協議会の設立 ・コンソーシアムの役割等の定義 ・コンソーシアムの事例収集 ・コンソーシアムの構成案の整理（他事例の調査、整理）	・スマートシティ推進協議会、コンソーシアムの関連性・協力体制等の整理 ・コンソーシアムの形成（連携できる事業者との連携による実証実験の実施）	・コンソーシアムの形成（幅広い主体の募集と事業提携へのチャレンジ）	・コンソーシアムの形成（実践を踏まえた持続可能なコンソーシアムの構築）

ボトムアップ（住民起点）型のスマートシティを推進していくにあたり、以下のような仕組みづくりが必要

1) 解決すべきニーズの優先順位付けにあたっての合意形成の仕組み：「できることからやっていく」ために
第3回協働プログラムにおいて、取り組むべき地域課題やニーズを決定していく上での合意形成をどのように行っていけるのか、ということに関して議論が行われた（特に第３回の「テーマ２」班）。
多様な世代に向けたアンケート等（電子媒体も含む）の実施などが案として挙げられた。

以下のような点について取組関係者の中で共通認識が必要。

- 合意形成のための手段と、ゴールについての共通認識
  - ワークショップでは、ニーズの調査までは可能だが、取捨選択や先行的な取組も同時に重要である。
  - アンケート等でも全員の回答を得ることは不可能という指摘も第３回ワークショップのなかで出てきたが、そもそもどこまで合意形成をすべきなのかという論点も考えられる。（世代に合わせた選択ができるのもスマートシティの良さであるという指摘もあり、合意可能な範囲での実行ができる仕組みが必要だと示唆される。）
- 優先順位をつけていく際の手段と、その「基準」に関する共通認識
  - 多様な市民がいるなかで、全体での優先度が最高レベルにならなくても、特定の市民層にとってはいち早く解決して欲しいという問題もあるため、協働プログラムの下で部会的な活動を設立して機動性を高めてゆくやり方も必要だと考えられる（特にワークショップではデジタルの現状での活用度合いやスマートシティへのニーズについて、世代間の差異が大きく、全体合意は難しい模様を呈した）。
  - 一部の協働プログラムで実施した通り、具体的なフィードバックのためには実証実験は必要。
- （各取組のターゲットの絞り込みと、ターゲットごとのニーズと照らし合わせた評価）

ボトムアップ（住民起点）型のスマートシティを推進していくにあたり、以下のような仕組みづくりが必要

2) 各取組の主体をエンパワーしていく仕組み：「できることからやっていく」を支援していくために
第2回協働プログラムでの計画案づくりや、第3回協働プログラムの議論内容から、協働プログラム参加者を中心とした、同じ問題意識・ニーズを持った市民のグループがすでに地域に存在することが示唆される。

この市民グループが主体となって取組を推進していくために、以下のような仕組みが必要。

- 同じ問題意識・ニーズを持った市民のグループを補足する仕組み。特に、モデル地区住民のコミュニティでは、子育て世代（例えばPTA）や学生など、それぞれの年代が中心となっているグループが取組主体となる可能性があることが第3回協働プログラムによって明らかになった。
- 取組を行う主体に対して、行政が人的・財政的な初期支援をしていく仕組み
  - 例：LINEによる地域情報案内やコミュニティ活動を行なっている方に対して、参加者を増やすための広報施策の支援を行うなど
- 取組を実施する主体も受益者も多様であるため、そもそもの検討主体に世代に限らないダイバーシティに飛んだ参画・企画主体が必要（特に次世代の担い手世代の参画が重要）。

ボトムアップ（住民起点）型のスマートシティを推進していくにあたり、以下のような仕組みづくりが必要

3) 取組内容を定期的にアップデートしていく仕組み：「できることからやっていく」あとの動き
上記の各主体による取組が、初期の対象層（該当するニーズを持つ市民層）からより多くの市民を巻き込んでいくものへと更新されていくために、以下のような実施・評価の仕組みが必要。

- 各取組のターゲットがもつニーズを解消しているかの評価（定量・定性的な観測による）
- より広い層・広い地域に展開していくための検討

4) それぞれの取組でのアーキテクチャを揃える包括的な仕組み
年代・立場が異なる市民の多様なニーズに対して、それぞれの取組が同時並行かつ異なる進度で進行していくことが想定され、それぞれの取組に用いられるデジタル技術に共通する仕様や包括的なアーキテクチャが求められる。また、金の流れを含むビジネスモデルや各主体のインセンティブ設計も重要である。

次年度事業の取組内容の方向性（案）

本年度事業の取組内容およびそこから得られた示唆を踏まえ、以下のような取組内容（案）を作成した。

1) ポータルサイト構築に向けた要件定義のための調査
第2回・第3回協働プログラムにおいて、地域情報の発信ポータルの構築がニーズとして挙げられた。情報を発信する側、情報を受信する側それぞれの立場から、どのような情報を掲載するのか、どのような媒体を用いるのかといった点に関して住民に対してインタビューなどの方法でニーズを調査し、次年度以降のポータルサイト構築に向けた要件定義につなげる。

2)地域情報を集約・発信する場において、自発的なコンテンツ作成・投稿を推進していくための実証実験
地域情報を集約するポータルにおいて、市民が参加・口コミ・投稿していくことの重要性に関して第3回協働プログラムで議論されたが、実際に市民が主体となって地域情報を作成・投稿してみる実証実験を行う。実験の対象は、モデル地区のコミュニティや、教育的観点から地域の学校に設定することを想定する。

3)本年度実施した実証実験（キッチンカーを想定）の継続および長期的な評価の実行
「緑地に飲食機能が必要」などの住民のニーズに応え、本年度第1回協働プログラムとして実施した、キッチンカーを用いた周南緑地の賑わいづくりに関して、より長期的な実証実験として継続化する。その際、キッチンカーによる賑わい施策の評価をデジタル技術を用いて行う、キッチンカー事業者へのヒアリングを実施する、といった点に留意し、次年度以降の恒久的な実施に向けた課題を整理する。

本年度事業から得られた示唆を踏まえた事業計画更新ドラフト（案）

一連の議論を受け事業計画の更新を実施した。本日の会議でも意見をいただき、それによる修正も含めて最終報告書として提出を想定。今後の事業に活かす。

更新後の事業計画ドラフト	課題の発見	課題に対するソリューションの実証		社会実装
	1年目	2年目	3年目	4年目以降
想定するゴール	・モデル地区の選定 ・モデル地区住民との課題共有 ・次年度以降の事業計画の企画立案（概算事業費の試算） ・スマートシティ推進協議会の運営	・プレ実証実験 ・次年度の事業計画の立案 ・短期の概算事業費の算出 ・コンソーシアムの設立検討（メンバー選定）	・地域情報などが集まるポータルサイト構築に向けた要件定義のための調査 ・地域情報を集約・発信する場において、自発的なコンテンツ作成・投稿を推進していくための実証実験 ・過去に実施した実証実験の継続 ・実証実験等の長期的な評価の実行	・社会実装 ・次年度の事業計画の立案 ・コンソーシアムによる運営の開始
実証等（プレ実証～社会実装）	・ワークショップによるモデル地域の課題とニーズの把握 ・講演会による地域住民等へのスマートシティの必要性の説明 ・プレ実証の実施内容の整理	・プレ実証実験の協力企業の募集 ・プレ実証実験の実施 ・プレ実証実験から得られたモデル地区における新たな課題、ニーズの把握	・地域情報の集約に関する具体的な調査・検証 ・自発的なコンテンツ作成の推進 ・実証実験の協力企業・パートナーの募集 ・実証実験の実施 ・実証実験から得られたモデル地区に　おける新たな課題、ニーズの把握と分析	・他の地域への展開の検討 ・スマートシティの恒久的な実施を実現するための市財政のキャッシュフローの継続的な分析
組織作り	・スマートシティ推進協議会の設立 ・コンソーシアムの役割等の定義 ・コンソーシアムの事例収集 ・コンソーシアムの構成案の整理（他事例の調査、整理）	・スマートシティ推進協議会、コンソーシアムの関連性・協力体制等の整理及び目的の検討 ・コンソーシアムの形成（連携できる事業者との連携による実証実験の実施）及び目的の検討	・情報発信に加え参加してもらう為の仕組みづくり ・ポータルサイト運営を含むコンソーシアムの設立の検討・実証（幅広い主体の募集と事業提携へのチャレンジ） ・コンソーシアムにおけるビジネスモデルの検討（企業間連携・お金の流れを含む）	・コンソーシアムの形成（実践を踏まえた持続可能なコンソーシアムの構築）